

第3回豊中市学校教科用図書選定委員会 会議録

1. 日 時 令和6年(2024年)7月4日(木) 14時00分～17時00分

2. 場 所 豊中市教育センター

3. 出席者 委員14名

4. 内 容

(1) 委員長あいさつ

(2) 調査報告会資料について

(3) 調査報告会について

①選定委員からの質問に先立ち、委員長より調査活動に対する謝意及び調査報告会での留意事項について説明することを確認する。

②調査員からの報告概要及び主な質疑

【音楽(一般及び器楽合奏)】

- ・学び方の工夫の観点等について報告があった。
- ・人権の取扱い、学び方の工夫の観点から、一般及び器楽ともに教芸を評価する調査員が多かった。

○委 員：観点ごとにどう感じたかを教えてほしい。

○調査員：教芸は二次元コードが充実しており、数、質ともによい。歌唱教材では歌詞と映像がマッチしている。合唱では各パートの音源が聞ける。

○調査員：教芸は目標が具体的に記され、勉強等もしやすい。

○調査員：教芸は記号や用語のページがある。教出は図や写真がわかりやすい。

○調査員：教芸は学習目標、活動、ポイント、見方・考え方、音楽を形づくっている要素等がページの下に示されている。紙面の構成がわかりやすい。教出は音楽の見方が示されている。

○調査員：教出は音楽づくりがしやすい。また、CMソングをつくろうなど、子どもが見たくなる仕掛けがされている。

○調査員：教芸はどのように歌いたいかを話し合ってから活動できるのがよい。生徒の主体性につながる。

○調査員：教出は「ドレミの歌」など、聞いたことのある歌が多く、なじみやすい。教芸は曲の構成や歌い方の工夫がされている。

- 調査員：教芸は資料やコラムが充実していてわかりやすい。
- 委員：ギターなど、器楽で指導しやすい発行者はどちらか。
- 調査員：教芸はギターや琴のコードがわかりやすい。また、音符だけでなく弾き方の記載もある。
- 調査員：教芸には二部合奏できる楽曲があり、また、運指の記載もある。
- 調査員：教芸は題材のめあてがわかりやすい。
- 委員：生活の中や授業外で発展していけるかという観点ではどうか。
- 調査員：教出はSDGsとの関連が書かれており、他教科と関連付けて学ぶことができる。
- 調査員：教芸には映画音楽の紹介があり、ここから深く考えさせることができる。
- 調査員：教出は創作活動がしやすい。
- 調査員：教芸はミュージカルの紹介があり、生活に結び付けやすい。

【技術・家庭（技術分野）】

- ・内容の程度、人権の取扱い、学び方の工夫の観点等について報告があった。
 - ・人権の取扱い、総合的な観点から、東書を評価する調査員が多かった。
- 委員：技術分野は木工など、実習も多い。振り返って勉強できるのはどの発行者か。
- 調査員：東書は文字やイラスト、写真が効果的に使われている。
- 調査員：東書はまとめが見開きで内容が多い。教図には副読本がついており、振り返りに使える。
- 調査員：東書は木材の資料が充実しており、見やすい。
- 調査員：教図はプログラミングのページが充実している。また説明が細かくわかりやすい。
- 委員：視覚的に安全面を捉えやすい発行者はあるか。
- 調査員：どの発行者もアイコン等が示されている。開隆堂は特にアイコンが多いため、注意喚起もしやすい。
- 委員：学び方の工夫について、発行者の違いはあるか。
- 調査員：東書と開隆堂はイラストや太字、配置等のバランスがよい。東書については単元の導入のイラスト等、授業をする視点でみると使いやすい。学んだ技術をもとに創造的な学びにもつなげやすい。
- 調査員：東書に「技術の工夫」というページがあり、興味関心を引く。
- 調査員：開隆堂は実習事例が多く載っている。内容も具体的で手立ても多い。

○調査員：東書、開隆堂は「〇〇しましょう」「やってみよう」などの問いかけが多く、生徒の考えを引き出すことができる。

【技術・家庭（家庭分野）】

- ・内容の程度、人権の取扱い、学び方の工夫の観点等について報告があった。
- ・総合的な観点から、東書を評価する調査員が多かった。

○委員：食品衛生や栄養素等、難しい単元の説明がわかりやすい発行者はどこか。

○調査員：開隆堂は内容が専門的である。東書はわかりやすい。

○調査員：東書が扱いやすい。

○委員：家庭分野について、実生活に落とし込みやすい工夫がされている教材はあるか。

○調査員：家族構成から実生活へという展開がわかりやすい。そういう観点でみると、授業の流れがわかりやすいのは東書、開隆堂。教図は単元ごとでは扱いやすい。

○調査員：東書はイラストもあり見やすい。

○調査員：開隆堂はページ下段に豆知識の記載がある。

○調査員：東書と開隆堂は、イラスト、写真等の視覚的な表記やコンテンツが充実している。

○委員：協働的な学習やグループ学習に適しているのはどの発行者か。

○調査員：東書。イメージしやすく、話が深まりやすい。

○調査員：東書はコラムが充実している。「考えてみよう」などコンテンツが多い。

【英語】

- ・内容の程度、組織・配列、学び方の工夫の観点等について報告があった。
- ・内容の程度の観点から、三省堂を評価する調査員が多かった。

○委員：発音や表現の助けになる発行者はどれか。またその理由は。

○調査員：どの発行者も二次元コードを読めば発音は聞けるが、音は三省堂がよい。発音を録画するとA Iが判定し、アドバイスをしてくれる。

○調査員：三省堂は音声を吹き込んでA Iが判定する機能があり、個別でトレーニングができる。また、レベルにあったものを選択できる。

○調査員：三省堂のA I判定がよい。映像資料も多いため、興味を引きやすい。

- 調査員：どの発行者もデジタルコンテンツが充実している。教科書に沿って進めれば学びが深まる構成になっている。
- 委員：基本的な学びは大事だが、クラスの中では学力差がある。協働的な学びがしやすい発行者はどこか。
- 調査員：教出は単元構成が会話重視。会話形式だから協働的な学習が進めやすい。また、会話のモデルもあるため、苦手な生徒も取り組みやすい。
- 調査員：開隆堂は挿絵やコメントが多く、苦手な生徒も参加しやすい。課題を教科書の工夫で解消することができる。
- 調査員：三省堂は全ての単元末にオールアクティビティというものがある。まず自分で考えて発表する。ペアでも取り組みやすい。この点が協働的に適している。
- 調査員：三省堂、啓林館、東書の三者にはスモールトークや帯活動が豊富にある。
- 調査員：開隆堂はアワープロジェクトに向け、スモールステップで展開されている。
- 委員：国際理解や人権も含め、教えたい内容のバランスがよいのはどの発行者か。
- 調査員：開隆堂は地球規模のグローバルやSDGs等の視点が充実している。東書、三省堂は文化、平和関連等が題材としてバランスよく取り上げられている。
- 調査員：開隆堂は職場体験を英語で表現するなど、実生活を表現するのにすぐれている。SDGsについても写真等で説明していてわかりやすい。
- 調査員：三省堂は日本の落語や昔ばなしを取り上げている。日本文化を学ぶのが面白い。
- 調査員：光村は修学旅行や合唱コンクール、お別れスピーチなどの身近なものが題材となっている。また、アメリカの人種差別などの教材も取り扱っている。三省堂は1年で小中接続など身近なテーマ、難しい題材の3年「平和への願い」が特によい。豊中は平和教育を重視している。修学旅行でも沖縄へ行く学校が増えている。そんな中、平和を題材にしている魅力的である。
- 委員：デジタル教科書はどこが使いやすいか。
- 調査員：三省堂、開隆堂、東書は、辞書機能や書き込み等が使いやすい。
- 調査員：三省堂のAIの判定や開隆堂はゲーム感覚で単語の学習ができる。光村は教科書の内容を絵で見せてくれるため、復習に活用しやすい。

【道徳】

- ・内容の程度、組織・配列、学び方の工夫の観点等について報告があった。
- ・内容の程度、人権の取扱いの観点から、東書、光村を評価する調査員が多く、学び方の工

夫の観点から、日文、あか図を評価する調査員が多かった。

○委員：生徒が考えられる発行者はどれか。

○調査員：東書の2年「プラス」という教材は、オープンエンドのような展開ができる。また1年の付録には「橋の上のおおかみ」がある。これは小学校でもよく扱われる教材で、違った視点でとらえられたり、違いを感じられたりできる。

○調査員：日文は怒りとの付き合い方、アンガーマネジメント、自分との付き合い方を考える教材がある。また、社会の様々な課題を考える教材や考え方を認め合うなどの題材がどの学年にもあるのがよい。

○調査員：光村は教材の最後に「相手のことを考えて行動するために大切なことは、どんなことだろう」という題材ある。補助発問もあり、考えさせる問いになっている。

○調査員：あか図はいろいろなテーマで、また、同じテーマでも視点を変えながら理解を深められる。

○調査員：光村は単元の最後に「見方を変えて」というものがあり、考える余地が生徒にある。

○委員：授業で生徒の発言を引き出しやすいのはどの発行者か。

○調査員：光村には「チャレンジ」という問いを作る設問がある。子どもが自分で考え、いろいろな意見を出しやすい。1つに集約するのではなく、様々な見方、考え方を生かすことができる。

○調査員：光村には「やってみよう」「問いを立てよう」やヨシタケシンスケさんの「なんだろうなんだろう」という教材がある。同じ内容項目でも道徳の教材の幅や深さがあり、思考を広げやすい。また、答えの幅広さならあか図もよい。

○調査員：あか図、東書は文章が難しくないため、発問時に意見を出しやすい。

○調査員：光村は「学びの道具箱」の活用で意見が出しやすくなる。

○委員：二次元コードをうまく使うなど、個性や特徴のある発行者はどこか。

○調査員：二次元コードが多いのは日文。どの単元にも二次元コードがあり、朗読を聞くことができる。また、シンキングツールもあり、ツールを使いながら自分の考えまとめたり、交流したりできる。道徳ノートにも二次元コードがついている。

○委員：授業しやすい内容やデジタルコンテンツについて、優れた点を教えてほしい。

○調査員：日文のノートには昨年度版まで発問が記載されていたが、今回、発問の記載がなくなっているため、教師や子どもが発問を考えることができる。

○委員：いじめの問題について、道徳教育の役割は大きい。自分ごととして考えることに優れている発行者はあるか。また理由も教えていただきたい。

○調査員：東書はいじめと命の二本柱となっている。各学年題材も多い。

○調査員：日文。いじめと向き合う、いじめに関する題材は各学年であり、3年間で定期的に学ぶことができる。

○委員：経験の浅い先生が使う際の特記事項があれば教えてください。

○調査員：東書、日文は補助ツールとなる二次元コードがある。

○調査員：日文にはノート、シンキングツールがある。

○調査員：東書、日文はコラムや二次元があり、情報量も多い。

（４）今後の予定について

- ・ 7月16日（火） 第4回選定委員会（答申策定）